日本地質学会 News

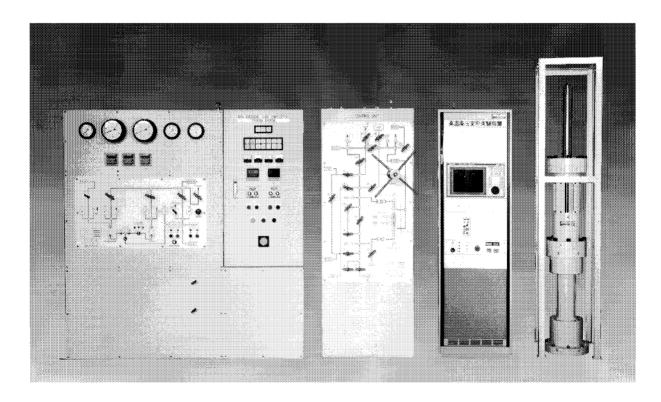
Vol.8 No.3 March 2005







地下6kmの高温・高圧・熱水条件を再現し、 岩石の三軸変形試験及び透水試験を行います。



高温高圧変形実験装置

- ガス圧式のため容易に高温が得られます。
- ▼ アルゴンガスを用いておりますので、岩石試料等に腐食などの悪影響がありません。
- 内部加熱炉を用いておりますので、岩石試料付近を局所的に加熱することができ高温でも安全に実験をおこなえます。
- 間隙圧媒体としてガスと液体(水)を用いることができます。
- ◆ 付属品に試料セットアップ治具、試料用ジャケット が用意されております。
- 既設の岩石圧縮試験機に取り付けて使用できます。

5/1GlnoMIY/1

お問い合わせ・ご用命は

試験機営業部

TEL 03 (3330) 7313 FAX 03 (3330) 7314

E-mail: dynamic-servo@saginomiya.co.jp

URL: http://www.saginomiya.co.jp

紫鷺宮製作所

本 社/東京都中野区若宮2-55-5 〒165-8907 大阪支店/大阪府吹田市広芝町18-12 〒564-0052

TEL 06 (6385) 8011 FAX06 (6384) 0859

福岡営業所/福岡市博多区博多駅前1-7-22 第14岡部ビル 〒812-0011

TEL 092 (436) 6001 FAX092 (436) 6002

日本地質学会News

Vol.8 No.3 March 2005

The Geological Society of Japan News 日本地質学会/〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル 6 F

編集委員長 大友幸子

TEL 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156 main@geosociety.jp (庶務一般) journal@geosociety.jp (編集) http://www.geosociety.jp

Contents

2005年会費払い込みについて ……1

開催通知:日本地質学会第112年代議員総会

京都大会News No.2 "未来を担う学校教育"企画 ……2

案内 ……3

第4回活断層研究センター研究発表会のお知らせ/平成17年度第1回 地質学的教養セミナー

公墓 ……3

広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻教員公募/富山大学理学部地球科学科地球進化学講座教員公募/東北大学大学院環境科学研究科太陽地球システム・エネルギー学講座地球物質・エネルギー学研究分野助手公募/東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻宇宙惑星科学講座助教授公募

紹介 ……5

日本の地学教育の歩み―戦後編(1945~2000年)倉林三郎・竹越 智著 (井本伸広)/献本 planetearth

Earth Sciences for Society

学協会・研究会報告 ……6

国際野外ワークショップ「ネパールヒマラヤ・カリガンダキ河に沿う地質と自然災害」報告(吉田 勝・B・N. Upreti)

列島各地から ……8

静岡大学理学部地球科学教室の地震防災への取り組み

表紙紹介 ……8

グランドキャニオン・プラトーポイントからみたコロラド河渓谷 (内藤一樹)

ジオロジストのための法律メモ ……9

著作権譲渡等同意書の解説 (6)

委員会だより ……10

地質災害委員会 報告会「新潟県連続災害の検証と復興への視点」 への出席報告(委員長 天野一男)

支部コーナー ……11

関東支部 2005年総会と支部幹事選出のお知らせ/北海道支部 総会・例会のお知らせ

院生コーナー ……12

国際デルタ会議:地質モデリングと管理参加報告(北沢俊幸)

CALENDAR ······13

学会記事 ……14

2005年度第5回理事会議事録

出版物在庫一覧 ……16

■ 2005年の会費払込について ~次回自動引き落としは6月23日(木)です~ ■

2005年1月~2006年3月の会費額は下記のとおりです。未納の方には督促請求書を送付いたしますが、早急にご送金をお願いいたします。督促請求は5月末頃の予定です。

1. 次回自動引き落としについて(2005年およびそれ以前の会費が未入金の方対象)

次回**,** 6 **月23日 (木)** に**引き落としの予定です**. まだ,会費を未入金の方で今後自動引き落としを希望される方は,「自動払込利用申込書」(2 月号ニュース誌巻末掲載) をご利用の上, **5 月13日 (金) までにお申し込み下さい**.

2. 自動引き落とし新規の申込を受け付けています. 登録口座変更の場合も改めて申込書をお送りください.

学会としては自動引き落としによる払込をより多くの会員に積極的に採用していただきたく,ご理解とご協力をお願いいたします。 申込は随時受け付けています。

(日本地質学会会計委員会)

広告取扱:株式会社廣業社

〒104-0061 東京都中央区銀座8-2-9 電話 03-3571-0997 印刷・製本:日本印刷株式会社

日本地質学会第112年代議員総会

2005年3月10日

日本地質学会 会長 齊藤 靖二

日本地質学会第112年総会を次の議事により開催します。

2005年5月22日(日)(14:15~17:00) 会場 幕張メッセ 国際会議場 (千葉市美浜区中瀬2-1)

- 1. 開会
- 2. 議長選出
- 3. 報告事項

2005年度事業経過報告(2004.9.20-2005.5.21)

- 4. 承認を求める事項
 - 1) 2005年度(2004.9.20-2005.5.21) 理事会議決事項
 - 2) 2004年度(2004.1.1-12.31)決算・財産目録および 7. 閉会 会計監查報告
 - 3) 2005年度 (2005.1.1-2006.3.31)

- 5. 審議事項
 - 1) 2005年度事業計画案および予算案について
 - 2) 名誉会員の推薦
 - 3) 日本地球惑星科学連合の設立・加盟について
 - 4) その他
- 6. その他

会則第29条により、本総会は役員ならびに代議員による総会となります。ただし、会則第30条5項により、正会 員は総会に出席し、意見を述べることが出来ます。

※なお、同日、同会場にて2005年度第4回評議員会を開催致します。(時間:13時45分~)

京都大会ニュースNo.2

"未来を担う学校教育"企画

2005年9月18日(日)~20日(火)に開催される京都大会では昨年 に続いて、"未来を担う学校教育"の企画として、第3回小・中・高 校生徒「地学研究発表会」,第4回教師地質巡検を行います.詳細は 追って本誌に掲載します!

○第3回小・中・高校生徒「地学研究発表会」

昨年の千葉大会では、小・中・高校生の展示がメイン会場の一角に 所狭しと並べられ、一生懸命に説明する生徒らと丁寧にアドバイスす る研究者の姿が見られるなど非常に好評でした。今年も昨年に引き続 き、小・中・高校生の発表会を企画します。クラブ活動、個人研究、 夏休みの自由研究など奮ってご応募下さい,多数の応募を期待します。

○第4回教師地質巡検

教師向け普及巡検は、8月28日(日)に日帰りで予定しております。 鈴木一久・紺谷吉弘・戸倉則正・天白俊馬の各氏の案内で、「山城の 国の木津川と支流の天井川」の巡検で、巨椋池干拓地の現況、京都南 部の輪中堤, 遊水地巨椋池と太閤秀吉の工事, 江戸時代の木津川堤防, 天井川の今とむかし, 近代砂防発祥の地, デ・レーケの遺産など, 過 去数100年間の河川と人間との関わりを知り、自然環境の将来を考え ようとするものです. ご期待下さい.

(大会実行委員会学校教育関係係 紺谷吉弘)



ご案内 ≣

本会以外の学会および研究会・委員会よりの催し物のご案内を掲載します.

第4回活断層研究センター研究 発表会のお知らせ

産業技術総合研究所活断層研究センターでは、以下のように第4回の研究発表会を開催します。この研究発表会では、活断層研究センターの第1期4年間の研究成果を紹介させていただくとともに、活断層研究の現状と今後の課題について議論を深めたいと存じますので、多数の皆様のご来場をお待ちしております

なお,事前の参加登録・予約等は不要です. お早めに会場にお越し下さい.

日時:平成17年4月12日(火)

10:30~17:00 (10:00開場予定) 場所:コクヨホール (東京都港区;JR品川 駅前)

プログラム (予定)

10:30~ 杉山雄一 活断層研究センター 4年間の歩みと新たな挑戦

11:00~ 吉岡敏和 全国主要活断層の活 動確率評価

11:30~ 粟田泰夫 活断層のセグメント 区分手法とその有効性

12:00~ 遠田晋次 断層間相互作用と「連動」

14:30~ 佐竹健治 2004年スマトラ沖地 震とインド洋の津波

15:00~ 岡村行信 海溝型地震の多様性 と今後の課題

15:30~ 国松 直 第二期に向けた取り 組み - 地震動予測と地表変形予測

16:00~ 関口春子 地震動予測手法の研究と阪神地域への適用

16:30~ 総合討論

なお、昼食休憩時を利用して、研究成果の ポスター展示と活断層データベースのデモン ストレーションを行う予定です.

詳細につきましては、活断層研究センターホームページ(http://unit.aist.go.jp/actfault/activef.html)をご覧ください.

お問い合わせ:活断層研究センター

吉岡敏和

E-mail: yoshioka-t@aist.go.jp 電話: 029-861-2465/Fax:029-861-3803

平成17年度 第1回地質学的教養セミナー

「50万年前に何がおこったか」 一最近の地震・火山活動の原点を探る一

主 催: 断層研究資料センター

後 援:(社)地盤工学会関西支部·日本応用 地質学会関西支部 他

最近、地震・火山、さらに台風によって日本列島は相次いで災害が発生しました。また、昨年暮れにはスマトラ島沖地震で、インド洋沿岸地帯に甚大な津波被害が起こりました。このような災害をもたらす現象はいつ頃から始まったのか、これを知る手がかりは第四紀中期更新世にみられるアジア地域の新しい地殻変動(ネオテクトニクス)が鍵であります。ヒマラヤ・北アルプス・六甲山地における具体的な例を示しつつ、アジアの変動帯の本質に迫りたいと考えております。

開催日:平成17年6月16日(木)

13:00~17:00

会 場:建設交流館8F グリーンホール (TEL:06-6543-2551)

定 員:200名

プログラム

参加費:3,000円(資料代含む)

申込み:事前申し込み不要.参加費は当日会場でお支払い下さい.

1. カトマンズ盆地とシワリーク丘陵に記録 された第四紀のヒマラヤ前縁山地の急激な ト豆

酒井治孝 (九州大学大学院教授)

2. 日本の尾根,中部山岳地帯の成立プロセス (仮題)

原山 智(信州大学大学院教授)

3. 六甲変動からアジアの変動帯へ 藤田和夫 (断層研究資料センター)・ 佐野正人 (中央開発株式会社)

なお、当センターのセミナーは技術士 CPD (継続教育) に履修実績として申請を することができます.

問い合わせ先:

断層研究資料センター 電話・FAX 06-6532-6218

E-mail: fred_c@orange.livedoor.com

公募≣

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては、採用結果をお知らせいただけますようお願い致します.



広島大学大学院理学研究科地球 惑星システム学専攻教員公募

- 1. 職種および人員:教授1名
- 2. 専門分野:「地球惑星進化素過程の解明 と地球環境の将来像の予測」を目標とし、 地球惑星システムにおける物質の移動と循環、環境変遷またはテクトニクスおよびダ イナミクスに関連した広い分野。
- 3. 応募資格等:
- (1) 上記専門分野で取得した博士の学位を有すること.
- (2) 本専攻には後記(8.)の研究グループがあり、このいずれかのグループに属して意欲的に教育・研究にあたり、且つ教室の活性化に大きく貢献しうること.
- (3) 学部および大学院の授業を担当し、且 つ学生の地質調査の指導ができること.
- 4. 応募締切り: 平成17年4月18日(月) 書留郵便で「公募書類在中」と朱書きのこ
- 5. 着任予定時期:平成17年8月1日以降で きるだけ早い時期
- 6. 提出書類:
 - (1) 履歴書
 - (2) 研究業績リスト(必ず,①査読有り原 著論文,②査読無し原著論文,③総説 (review),④その他に区分して下さい.)
- (3) 主要な論文の別刷 (またはコピー) 5 編別内
- (4) これまでの研究概要と着任後の研究計 画(A4用紙2枚程度)
- (5) 教育に対する抱負(A4用紙2枚程度)
- (6) 応募者についてご意見をいただける方 (2名程度) と、その連絡先
- 7. 書類送付先および問合せ先:

電話: 082-424-7468

〒739-8526 東広島市鏡山1-3-1 広島大学大学院理学研究科 地球惑星システム学専攻長 渡辺 洵

8. 現在の地球惑星システム学専攻HP http://www.geol.sci.hiroshima-u.ac.jp]も参 照下さい。

富山大学理学部地球科学科地球進化学講座教員公募

- 1. 所属:理学部地球科学科地球進化学講座
- 2. 職名及び人員:助教授1名
- 3. 研究分野:地質古生物学
- 4. 担当授業等:学部および大学院理工学研

究科博士前期課程と博士後期課程での地球 科学に関する専門教育の授業(講義および 実験・実習・演習)や研究指導のほか,教 養教育関係科目の講義や実験

- 5. 応募資格:採用の時点で博士の学位を有する方. 野外地質調査の教育指導のできる方. 平成17年4月1日現在の年齢が35歳位までの方が望ましい. 地質図を作成して公表したことのある方. 地質学と古生物学の両分野に堪能な方. 海外での地質調査の経験のある方, が望ましい
- 6. 採用時期:決定後可能な限り早い時期
- 7. 応募締切日:平成17年4月末日必着
- 8. 応募書類:下記の書類を郵送して下さい
- (1) 履歴書(写真貼付,高校卒業以降の学 歴,職歴,学位,受賞歴など)
- (2) 研究業績リスト (①博士論文, ②レフェリーのある論文, ③その他の論文・総説等, および④著書, に分けて下さい)
- (3) 主要論文3編以内の別刷またはコピー 各1部
- (4) これまでの研究の概要 (A4版2枚以内)
- (5) 今後の教育・研究に対する抱負 (A4 版2枚以内)
- (6) 科学研究費補助金等外部資金の獲得状況リスト
- (7) 推薦書1通,または当方より応募者に ついてご意見を伺える方2名のお名前と ご連絡先
- 9. 応募提出先:

〒930-8555 富山市五福3190

富山大学理学部地球科学科長 酒井英男 封筒には「地球科学科教員応募書類在中」 と朱書きし、簡易書留で郵送して下さい

- 10. 問い合わせ先: (所在地は書類送付先と 同じ)
 - (1) 募集内容について

富山大学理学部地球科学科 氏家 治 Tel:076-445-6653 Fax:076-445-6658 E-mail:ujike@sci.toyama-u.ac.jp

(2) 給与等について

富山大学総務部人事労務課任用係 Tel: 076-445-6017

東北大学大学院環境科学研究科 太陽地球システム・エネルギー 学講座地球物質・エネルギー学 研究分野助手公募

1. 募集人員

太陽地球システム・エネルギー学講座 地球 物質・エネルギー学分野 助手1名

2. 専門分野および応募資格

岩石/熱水相互作用に関する研究分野,特に岩石と地殻流体との反応から,地圏(地殻,海洋底等)環境評価,物質転換,持続的エネルギー創出の研究に意欲のある人.

出身分野,専門分野,国籍は特に問わないが,水熱実験の経験があることが望ましい.場合により,面接を実施する.博士の学位を有するか取得見込みの者で,着任時35歳程度までが望ましい.

3. 着任時期

決定後, なるべく早い時期.

4. 任用期間

助手1名(任期5年 最大2回まで再任可)

5. 公墓締切

平成17年5月9日(月)必着

- 6. 提出書類
- 1) 履歴書 (形式自由,写真糊づけのこと,連絡先電話,e-mail)
- 2) 研究業績概要 (A4用紙2枚以内) と主 要論文の別刷5編 (コピーでも可)
- 3) 業績リスト (原著論文, 国際学会プロシーディングス, 解説・総説, 著書, 特許にわけて記載のこと)
- 4) 今後の研究計画と教育活動に関する抱負 (A4用紙2枚以内)
- 5) 本人について紹介可能な方2名の氏名と 連絡先(所属,住所,TEL,e-mail)
- 7 送付先

〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-20

東北大学大学院環境科学研究科 教員公募

(封筒に「地球物質・エネルギー学分野教員 応募書類」と朱書きのこと. なお,提出書類 は返却しませんのでご注意ください)

8. 問い合わせ先

東北大学大学院環境科学研究科 土屋範芳 電話/FAX 022-795-6335

東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教員公募

1. 公募人員:宇宙惑星科学講座 助教授 1 名.

2. 専門分野:

固体惑星科学の研究および教育に主導的役割を果たすとともに、将来の宇宙惑星科学への展開に意欲的に取り組む方.着任後は他の教員(「その他」参照)と協力して宇宙惑星科学の研究、および大学院・学部教育を積極的に推進していただきます。

- 3. 着任時期:平成17年10月1日以降のでき るだけ早い時期.
- 4. 応募方法:自薦もしくは他薦(他薦の場合は本人が了解していること).
- 5. 提出書類:
- (a) 略歴書 (学歴および職歴)
- (b) これまでの研究業績の概要 (1600字程 度)
- (c) 研究業績目録(査読論文とそれ以外の総説,著書などに分類)
- (d) 主要な原著論文別刷 (コピー可) 5編
- (e) 自薦の場合は、今後の研究・教育の計画 および抱負(1600字程度) 他薦の場合は、 推薦書
- (f) 自薦の場合は応募者に関して御意見を頂ける方2名の氏名および連絡先(住所,電話,電子メール)
- 6. 応募・推薦の締切:平成17年5月9日 (月) 必着のこと。
- 7. 書類提出先:

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院 理学系研究科

地球惑星科学専攻長宛

(封筒に「宇宙惑星科学講座助教授公募書類在中」と朱書し,簡易書留にてお送り下さい。)

8. 問い合せ先:

宇宙惑星科学講座 教授 寺澤敏夫 TEL:03-5841-4582 FAX:03-5841-8321 E-mail: terasawa@eps.s.u-tokyo.ac.jp

9. その他: 当該講座の概要など, 詳しくは 専攻のWEB:

http://www.eps.s.u-tokyo.ac.jpをご覧下さい.



紹介

日本の地学教育の歩み―戦後編 (1945~2000年)

倉林三郎·竹越 智 著



/ 地学団体研究会 地学双書35, 2004年11月10日発行, A 5 版, 328p. (本文)+33p. (資料編), 会員頒布

2004年12月26日のスマトラ島沖巨大地震に伴った大津波は、インド洋周辺の国々に未曾有の災害をもたらした。04年10月23日の新潟中越地方を襲った直下型地震。例年になく多くの台風が日本列島を直撃し、各地に大きな爪痕を残したことも記憶に新しい。

日本列島に暮すかぎり、地震や津波、台風などといった自然の脅威から遁れることはおほつかない。こうした脅威から生命や生活を守るためには、先ず、自然の成り立ちや事象の仕組みを熟知することが必須であり、そのために地学の学習は不可欠であろう。

しかし、多くの高等学校では「地学」が廃止され、地学教員が、他教科への転換を余儀なくされるようになっているとのこと。また教員からは、多忙さゆえに、自らの研究活動を通してこそ得られる感動を教育に生かすこ

とが困難になってきている、といったつぶや きも聞こえてくる。そればかりか、子どもた ちが安心して学べる学校や地域の安全さえ脅 かされている現実。いま、日本の教育を取り 巻く状況は深刻であり、どこかで歯止めをか けなければ子どもたちの未来に責任が果たせ ないではないか

こんな焦りにも似た気持ちを少しでも払拭するには、回り道のようであっても歴史を繙くこと、先人の努力や知恵に学ぶことが肝要であろう. そんな想いで本書を手にした.

著者はそれぞれ、50年、30年の長きにわたって、自らの研究活動を継続しながら、その経験と成果を地学教育に生かす努力を続けてこられた斯界のベテランである。ことに筆頭著者は、すでに本書の前編となる明治期から1940年代前半までの「歩み」(地団研地学双書31)に続けて、気鋭の共著者と共に満を持して上梓した著作である。

本書は、年代の節目ごとに分けられた五つの章とむすびからなるが、全体を通して二つの流れが拮抗している様子が汲み取れる。一つは、戦後の混乱のなかでの連合国軍総司令部(GHQ)、米国教育使節団や教育刷新委員会による教育改革への提案に始まり、その後、中教審や臨教審の意向に沿いながら、文部省主導で進められてきた教育政策の変遷を追う流れであり、他の一つは、こうした流れに抗して教師とかれらを支える研究会・学会などによって展開されてきた実践活動の流れである。

1947年に、文部省は小・中学校の学習指導要領(試案)で、いわゆる「生活単元学習と問題解決学習」を導入した。その後、ほぼ10年ごとに指導要領の改訂が行われ、系統的な学習、探求の過程の重視、ゆとりの学習へと力点を移してきた。さらに90年代には、小学校低学年に生活科を導入し、中学校では履修科目の多様化を容認するなど、理科教育をめぐってたびたび方向転換を図ってきた。

高校教育については、1948年の新制高等学校発足時に、「地学」が新設された。ところが全国高等学校長協会は、1959年、文部省に高校地学廃止の申し入れを行った。この動きに対し、地学教師や学会は意見書をまとめ、文部省などにはたらきかけた。その結果、理科4科目(地学2単位)必修が実現することとなり、地学履修生の数は激増し、地学教員の採用数が大きく伸びた時期もあったが、長くは続かなかった。

こうしてみると、戦後日本の理科教育、ことに地学教育は、一貫性を欠く教育施策の実施によって、振り子のように大きく揺らいできたことがわかる。さらに現在、教育への競争的市場原理の導入による教育再編成が進む趨勢にあるところから、著者らは「今まさに、教育の危機、理科教育の危機、地学教育の危機の時代のまっただなかにいる」と分析しているが、首肯できるところである。

一方,戦後いち早く結成された地学団体研究会の科学運動や日教組教育研究集会,科学教育研究協議会の活動など,あるべき理科教育,地学教育を目指して粘り強く展開されてきた,創意あふれる活動について詳しく紹介されており,こうした活動が,日本の科学教育を根底で支えていることをうかがわせる.

こうした二つの流れをふまえて,著者らは, 21世紀の地学教育について展望している.

教育の本質は、子どもたちに感動を与えることができるかどうかにかかっており、教師自らが、真実を追究する姿を示すことで子どもたちに感動を与えることができる、としたうえで、子どもたちは本来自然が好きであり、実物(本物)に触れることで、疑問や学ぶ意欲が生まれ、疑問の解決を通して得られた感動やよろこびが次のステップにつながる、と述べている。蓋し卓見といえよう。

さらに,真の地学教育の構築に向けて,地域に学ぶ地学教育を実践することの意義が強調され,そうした実践を基礎に21世紀にむけて地学教育の体系化を進めることの必要性や,そのためには地学教師の連帯を強め,市民や市民団体との連携を深めることの必要性などが述べられて,本書は締め括られている.

全体を通して、豊富な資料が駆使されており、資料編として添えられている「理科の履修状況の変遷」や「年表」も充実している。地学教育の変遷の背景に横たわる日本の経済、政治動向にも目が行き届いており、著者らの地学教育に懸ける熱意と一貫した姿勢が汲み取れる内容となっている。通読しておえる書物というよりは、方向性を確かめる折に参照する座右の書として、理科教育・地学教育にかかわる教師・研究者に広く薦めたい。

なお本書は会員頒布となっているが、少し 余分があり、入手可能とのことなので、希望 者は地学団体研究会(東京都豊島区南池袋2-24-1 河合ビル5F, Tel: 03-3983-3378, Fax : 03-3983-7425) に直接連絡をとるとよい.

(井本伸広)

献本

下記の献本をいただいています。書評執筆の労をお取りいただける方はNews誌編集委員会までお知らせ下さい。

「Handbook of Stable Isotope Analytical Techniques, Volume 1」P. A. de Groot 著 EISEVIER 2004年11月発行。定価 \$ 150 1248p.
「Handbook of Geophysical Exploration: Seismic Exploration, Volume 1」J. K. Costain·C. Coruh著編 EISEVIER 2004年12月発行。 定価 \$ 176 400p.

「New Developments in High-Pressure Mineral Phusics and Applications to the Earth's Interior」D.C. Ruibie, T.S. Duffy, E. Ohtani編著 EISEVIER 2004年10月発行、定価 \$ 190 750p.

「High Pressure Geochemistry & Minerak Physics」S. Mitra著 EISEVIER 2004年10月発行. 定価 \$ 220 960p.



学協会・研究会報告

国際野外ワークショップ「ネパールヒマラヤ・カリガン ダキ河に沿う地質と自然災害」報告

トリブバン大学地質学教室(ネパール) 吉田 勝・B・N. Upreti

表題の野外ワークショップが2004年10月4 日から10月13日の9日間にかけてネパールヒ マラヤ中西部のカリガンダキ河沿いで行なわ れた. 本ワークショップは国際セミナー「南 ~東南アジアにおける自然災害対策:その実 態と技術移転の問題点」(JICA広域セミナー) に付属したもので, 主催はトリブバン大学ト リチャンドラ校地質学教室及びIICAネパー ル事務所であった.参加者はブータン、マレ ーシア, カンボジア, タイ, モルディブ, バ ングラデシュ、ネパールからJICAシニアボ ランティア9人,青年協力隊員3人,それら のカウンターパート10人に、主催者側の筆者 らトリブバン大学地質学教室の教員10人及び 特別招聘講師3名の合計35人で、このうち全 期間の参加者は30人であった.

カリガンダキ河は北のチベット高原から南 のガンジス平原 (テライ) まで、ヒマラヤを 貫いて南北に世界一深い渓谷を穿って流れて いる. 北はチベット・テチス帯から始まり、 ハイヒマラヤ帯, レッサーヒマラヤ帯, シワ リーク帯からテライへと、ヒマラヤのすべて の主要地質帯を横断し、ヒマラヤの地質構造 断面の観察に最適のルートのひとつである. ハイヒマラヤを横断するところは東西両サイ ドに8000m級のアンナプルナとダウラギリ山 脈がそびえ、世界で最も比高差の大きい、深 い谷を形成している. 野外ワークショップは. 参加者にこの美しい渓谷に沿うヒマラヤの模 式的地質構造断面, 今なお上昇しつつあるこ の山脈の成長の様子と, それ故に顕著な自然 災害の多くの例を示すことを計画した.

カトマンズからポカラへ:10月4日,特別仕立てのグリーンラインバスでカトマンズ朝8時発,プリティヴィハイウエイを西に向かった.このネパール最大の片側1車線のハイウエイも,しばしばところどころで地すべり災害を受け,ハイウエイとは名ばかりで,ポカラまで平均時速35~40km程度がようやくといったものである.途中クリシュナヴィールの地すべり地帯を観察した.ここは2001年に地すべりが発生して以来毎年地すべりが起っている有名な地点である.2001年以来,カトマンズは毎年雨季にはこの地すべりのため,南のテライやインドとの交通遮断を数日からときには1ヶ月余儀なくされている.

ポカラ周辺:10月5日, 我々はポカラ盆地内の数地点を見学した. 朝ホテルをバスで出発し、まず北方4kmのバガール付近でセティ川河原の転石を見学した. 大小様々な石は殆どが各種のハイヒマラヤの片麻岩類とレッサーヒマラヤの低変成堆積岩類であった. 美しいカイヤナイト或いはガーネットを含む片麻岩の巨石が多くあり、見事であった.

その後、南に下って飛行場近くのセティ川のほとりに昨年オープンした山岳博物館を見学した。ここではヒマラヤの登山、地形、地質、民族、環境など多くの興味深い陳列があり、JICAシニアボランティアとして同館に勤務する竹花晃氏に詳しい案内を頂いた。その後再び北に戻ってカリ河の大吊り橋から両岸のGhachoku層(約15000年前)とPokhara層(約700年前)を観察し、あるいはペワ湖ダムサイト南にあるPokhara層を穿つデビッドフォールやグプテシュワール洞窟を見学し



写真1. カグベニ東のテラスで、参加者全員、背景はチベット・テチス帯のムスタン王国地域



写真2. カグベニ, カリガンダキ河右岸の白亜紀 Chukh層. 左岸テラスの上に建ついくつかの建物は, カリガンダキ河の側方侵食のため, 間もなく河に転落 しそうだ. 背景はニルギリ連峰.

た.

ポカラ〜ジョムソン〜ムクチナート:10月6日,ホテルを朝5時半に出て空港に向かい,幸運にも第一便と第二便で全員が朝のうちにジョムソンに飛ぶことができた.驚いたことに,前日まで9日間にわたってこのフライトが無く,また,この日以降再び3日間止まったということであった.我々のグループには余程行いの良い人がいたのだろう.

ジョムソンは標高2800mで、すでにヒマラヤの主稜線を超えてチベットの乾燥気候帯にあり、ポカラから到着した旅人はみな周りの荒涼とした砂漠のような風景と、幅1km近いカリガンダキ河床や、真上に聳える真っ白く鋭いニルギリ連山に目を見張る.

飛行機を降りてのんびりと3-4時間周りを散歩したり、昼食をとったりして高度順化充分の我々は、午後1時ころからカリガンダキ河沿いに北方ほぼ10kmのカグベニに向かった。この区間の基盤岩類はすべてテチス層群の中生代堆積岩類であり、強く傾き、著しい褶曲構造を示している。この基盤岩類を覆って殆ど水平の新生代湖成層と各種の第四紀層が広く谷に沿って分布している。途中、第四紀テラスの斜面崩壊や、土石流堆積物などが数筒所観察された。

10月7日,カグベニを朝7時に出て3800m高のムクチナートに向かった。1000mほどの登りである。高度に弱そうな人や調子の悪い人のために馬を8頭と馬子4人を雇った。しかし幸運にも、高度障害を訴える人は現れなかったし、とくに調子の悪い人もなかった。カグベニからムクチナートに向かうトレッキングルートはカリガンダキ河から離れて、同河に東から流入するジョン谷に沿って東に向かう。最初の300mの登りはきつかったが、その上のハイテラスの展望は素晴らしかった。我々は北に荒涼としたムスタン王国の砂漠風丘陵を、あるいは南にダウラギリ連峰を背景に、それぞれ素晴らしいグルーブ写真をものにした(写真1)。

この日の観察は白亜紀のテチス堆積岩類と各種の第四紀堆積物であった。ジャルコット周辺では、広いジョン谷は氷河作用と河川作用の混合した独特の地形を示している。ムクチナート周辺は特徴的にモレーンだけが広く分布している。ムクチナートの最高地点にあるムクチナート寺院では、ネパール各地から参詣してきた人達やトレッカーらが聖なる冷





写真3. カリガンダキ河床のタトパニ温泉



写真4. 平和記念塔から見るダウラギリとアンナプルナ連峰

水で行水をしていた. 我々の何人かも加わっていたようであった. のんびりとカグベニに戻ったのは夕闇迫る18時ころであった.

カグベニ~ベニ:10月8日,我々はカグベニ部落対岸の白亜紀Chukh層とMudhinn層の巨大な崖を観察した(写真2). Chukh層岩石は新鮮で、コーツアイト、砂岩が多く、少量の頁岩を含む. 明瞭な粒度分別堆積構造や見事な風速痕(?)が観察された. 残念ながらしかし、我々は見事な化石が見られるMudhing層を観察できなかった. ほんの数m先に露頭はあるのだが、ACAP(アンナブルナ保護区プロジェクト)の役人が一人当たり700ドルのムスタン王国入国税を納めないとそれ以上北に入ってはいけないと頑として譲らなかったのである. 我々はおいしいカグベニりんごをほお張って腹の虫を治めることにした.

カグベニからは南約70kmのベニに向かう 数日間のトレッキングである. ジョムソンで 昼食をとった後、6km南のマルファに向か った. マルファ北のシャン谷源頭に臨むサン ダチェ山群の東斜面では見事な横臥褶曲を観 察した. 道の脇にはデボン紀Tilicho Pass層 の絹雲母千枚岩, 石灰質薄互層や石灰質頁岩 がしばしば観察できた. シャン谷の合流地点 では土石流起源であろう巨大な扇状地堆積物 が発達している。マルファには16時30分に到 着し、この村で2年間滞在したという河口恵 海師記念博物館を訪ねた、我々のホテルのご 主人の父君は, 恵海師と直接に過ごした経験 があるということで詳しく熱のこもった説明 を受けた。100年近く前に世界に先駆けてヒ マラヤ, チベットに分け入った先達に思いを 馳せつつ、夜はマルファ特産のりんごブラン ディーを大いに楽しんだ.

10月9日、早朝起床して朝日に輝くダウラギリ連峰、アンナプルナ連峰、ニルギリ連峰に感激した。南下するに従い、植物相は次第に姿を変えて密になり、乾燥した北のチベット帯との見事なコントラストを見せる。この日に観察した基盤岩類はテチス堆積物の内、中~下部古生代~上部先カンブリア代(?)層、南チベットディタッチメント(STD)と、その南の先カンブリア代ハイヒマラヤ片麻岩類であった。STDはテチス帯とハイヒマラヤ帯を分ける巨大正断層系といわれているが、ここでは必ずしも明瞭ではない。カリガンダキ河沿いには各種の河川現象やテラス堆積物の斜面崩壊がよく発達している。この

区間のテラスの構成物は氷河性, 氷河河川複合, あるいは湖沼性堆積物が主であった.

カリガンダキ河左岸では巨大な横队褶曲が 観察された。そのコアは白い石灰岩層からなっており、くっきりと見事な構造が認められ、この横队褶曲が北バージェンス(南から北に突き上げる動き)であることがわかる。 STDの直上あるいはすぐ北のコケタティ部 落北のつり橋の両側によい露頭があり、カンブリア紀アンナブルナ黄色層の石灰岩が黒雲母を含む粗粒な大理石に変成しており、隣接するハイヒマラヤ片麻岩による熱の影響が推測された。この現象はハイヒマラヤの眼球片麻岩とテチス堆積物との貫入関係を支持するようであった(Yoshidaら、2004)。レテに16時30分に着き、投宿した。

10月10日、レテを7時に出てタトパニに向 かった. この日に観察した基盤地質はハイヒ マラヤ片麻岩, レッサーヒマラヤ低変成堆積 岩類と主中央衝上断層 (MCT) で、MCTは 前2者の境界巨大断層である. 第四紀堆積物 も, 各種の自然災害事象を伴って広く発達し ている. レテ周辺カリガンダキ河左岸では氷 河起源と思われる巨大な堆積物が現河床より 2km程も離れた位置にも見られ、現河床よ りも約400m高い山、台地やテラスを構成し ている. これらの膨大な量の氷河堆積物は多 分, カリガンダキ河主流にそってかつて巨大 氷河が発達した証拠であろうとの見方もあっ た. これらの氷河堆積物には地すべりや斜面 崩壊が多数発達していた.ダナ部落近くでは, ハイヒマラヤ帯の黒雲母片麻岩が種々の程度 に圧砕作用を被り、MCTの影響が窺われた. ダナ部落の対岸にはウルトラマイロナイトや 種々のマイロナイト岩類が発達するが、今回 は時間の関係で対岸からの観察に留まった. ダナ到着3時で、遅い昼食をとり、日暮れに 追われつつようやくタトパニに辿り着いたの は夕暮れ迫る5時半であった.しかし我々の 何人かは疲れも見せず、ホテルに荷物を置く 時間ももどかしく、河原の"タトパニ温泉" に向かい、なんとかまだ開いていた温泉を楽 しんだ (写真3). 途中ダナから特別に伝令 を出して、平素6時までの温泉を7時までオ ープンしてもらっていたのである.

10月11日,朝6時,夕トパニ温泉は地元の 奥さん方が10人程も入浴していた。15m四方 くらいの湯船の向こう側にサリーなどをまと った女性群,こちら側には水着やタオル等を 装った男女のトレッカーと一見住み分けてい たが部分的に混合したりして、なんとなく楽しい雰囲気であった。名残は惜しかったが予定通り7時にベニに向けて出発した。出発してすぐ、タトパニの南1kmほどのところに、左岸の大岸壁から大きな岩崩れ(地すべり崩壊)の痕があった。これは1998年の事件で、カリガンダキ河は堰き止められ、そのためタトバニ村の大部分が7時間にわたって水の下になったという。丁度道で会った村の人達に、当時の生々しい話しを聞くことができた。

この日の見学区間の基盤岩類はすべてレッ サーヒマラヤの低変成度堆積岩類であり,大 部分が最下部のKuncha層である. 中~下部 原生代の(上部原生代とする考えもある)ス レート, 千枚岩, コーツアイトなどが主体で ある. 延々とこの日一杯殆ど同様の黒色, 灰 色, あるいは緑色の千枚岩ばかりで, 時々か なり厚いコーツアイトが見られた. このコー ツアイトのためにカリガンダキの両側のあち こちには殆ど連続的に、とてつもなく急で高 い崖が発達している. 真に特徴的な地形であ る. ほぼ10kmほど南下してバイシカリ部落 を過ぎたあたりで車道になり、車を待って, 1時間ほどしてようやく車を捕まえた. 途中 ラフガート河で車を変え, ベニにグループの 先頭がたどり着いたのは15時半であった。後 発グループは約1時間ほど遅れて到着し、手 配のバスでベニを17時半に出発し、ポカラに 着いたのは真っ暗な夜20時半だった。日本食 レストラン「古都」での安全確認と無事帰還 祝いの夕食会は、皆大分疲れてはいたが大い に盛り上がった.

12日、13日はポカラで野外巡検のまとめセミナーをしたり、ダウラギリとアンナプルナ連峰の眺望を楽しんだりした(写真4)が、割愛する。

本野外ワークショップのガイドブック (B 5 版カラー72頁) の残部は僅少であるが主催者の手元にあり、ご希望の方は下記にご連絡下さい. なお、さらに本格的なガイドブックを目下編纂中であり、本年3月には発行される予定である.ご関心の方はお問合せ下さい.

M. Yoshida/B.N. Upreti

Department of Geology, Trichandra Campus, Tribhuvan University, Ghantagar, Kathmandu, Nepal

E-mail : gondwana@wlink.com.np/bnupreti @wliink.com.np

列島各地から

列島各地から情報発信をめざし、各地の会員の方からお寄せいただいた地球 科学に関連したいろいろな記事を掲載したコーナーです.

静岡大学理学部地球科学 教室の地震防災への取り 組み

北村晃寿(静岡大·理·地球科学)

私が勤務する静岡大学は東海地震の想定区域にある。10年ほど前に着任した際に、地球科学教室の廊下の両側に、岩石や堆積物試料の入ったコンテナー(もろぶた)が、天井までに積み上げられている光景に大変驚いた。その段数は23段にも及ぶ、ひとたび地震が起これば、1箱で10~20kgの重量物が廊下の両側から崩れ落ちるのであるから、危険この上ない。そのうえ、崩れ落ちたコンテナーからは試料が四散するので、災害後の救難活動にとって多大な支障をきたすことは間違いな

い. もっとも消防法に抵触しているのだが.

2年前に新棟の建設に伴って、地球科学教室の面積スれるれた。試料を入れる私た。れる本様に移動することとなり、居室階の責任者である。ご覧いい。の障害物はない取りに一切の障害物にない取りに一切の障害が災へややらに一切のでは、在校生ややらに受験者にとっても安心感を与えるものである。



表紙紹介

グランドキャニオン・プラトーポイントからみたコロラド河渓谷

写真·文 内藤一樹 (産業技術総合研究所)

グランドキャニオンは、アリゾナ州の北部に位置し、コロラド河が6億年にわたってコロラド台地を侵食してできた峡谷である*). 台地 頂部のペルム系Kaibab石灰岩から峡谷底部のプレカンプリア系Zoroaster花崗岩まで、比高にして1600m以上あり、この間の地層時代はおよそ20億年分に相当する. 写真は、古生界基底のTapeats砂岩が侵食抵抗面となって形成された渓谷中段に広がる平坦面(Tonto Platform)から、プレカンプリア統に険しく切り込むコロラド河渓谷を見下ろしたもの(Plateau Pointにて). この広がった平坦面までは、台地上のリムから往復20km、比高差が合計2200m以上あり、その間に写真の遠景に広がっているカンプリア系からペルム系に至る汽水~淡水性石灰岩や陸成の赤色砂岩、デューン堆積物層が露出している.

*) グランドキャニオンの侵食期間については種々の議論がなされており、長期間の継続的侵食活動説の他に、中生代以降のごく短い期間に 下刻が進んだとする説も多い。

国立情報学研究所の電子図書館をご利用下さい

~地質学雑誌第1巻から無料閲覧できます~

インターネット (電子図書館http://els.nii.ac.jp/) で、地質学雑誌 (2004年11月号まで)、地質学論集 (2000年, no.57まで)、講演要旨集 (1999年分まで) が第1号から無料閲覧できます。これで、ご家庭の蔵書・スペース問題は一挙に解決です。ただし、地質学論集は会員



でも有料です。アイランドアーク誌はBlackwell社に版権がありますので、このサービスの対象となっていません。利用可能な対象は毎年 1 年ずつ新しくなります。

利用するためには利用申請(登録)が必要となります。上記URLへ入り、利用申請についての説明(登録要項、記入例、研究分野一覧表など)を参考に申込書を書いて、下記宛に申し込めば、1~2週間でIDとパスワードが送られてくることになっています。地質学会発行の雑誌等の無料閲覧には所属学会の会員証明が必要です。非会員は有料となります。学会事務所へ申し込んでいただけば、学会の会員証明を済ませた利用申込用紙をお送りいたします。利用登録をしなくても、題目と著者名までは閲覧が可能です。

利用申込み用紙送付先:

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-2-1 国立情報学研究所 開発・事業部企画調整課 共同利用係 宛

(日本地質学会総務委員会)



ジォロジストのための **法律メモ**

著作権譲渡等同意書の解説(6)

弁護士 高木宏行

前回,ご紹介した判決**では,地質学の論文等に登場する層序図や柱状図についても判断していますが,著作物性を否定しました.もちろん,この判決では,この事案で問題になった層序図や柱状図についての判断をしたということであって,一般的に層序図や柱状図には著作物性が認められない,ということまでを判示したものではないと考えます.判示の中で指摘されているアイディア(学説)と表現を区別すべきとした点は正当ですが,図の書き方に定型性があるからといって直ちに個性が失われるというものではなく,その定型を保ちつつもなされる表現になお工夫の余地があると考えられ,その点では上記判示は、割り切り過ぎの感が否めないと考えられます.

著作者

概略ではありますが、これまで著作権法がいう「著作物」というものがどのようなものであるかを述べてきました.

ここで著作権譲渡等同意書に戻ってみましょう。同意書の冒頭には、著作者の欄があって氏名と住所を書くようになっています.

「著作者」とは、「著作物を創作する者」(著作権法2条1項2号)であり、「著作者は、次条第1項、第19条第1項及び第20条第1項に規定する権利(以下「著作者人格権」という。)並びに第21条から第28条までに規定する権利(以下「著作権」という。)を享有する」(同法17条)とされています。

著作者は原則として自然人(法人に対する語)ですが、その 著作物を創作する者が誰かということは、しばしば争いになり ます. 1つの作品を作り上げるのに複数の人が関与することも 多く、また注文して制作させる場合もあります。裁判では、著 作物の創作的な表現と認められるところを作成したのは誰かと いう基準で判断をしていると言われています。

東京地裁平成9年3月31日判決は「書籍六初出部分のイラス トないし漫画は、守谷が、前記の参考文献の内容やイラストを 参考にしたり, 吉田や堀及び山田栄養科長の意見を記載した文 章部分に合うように、独自のキャラクターを用いて描いたもの であり、その著作者は、守谷であると認められる。 なお、原告 がイラストないし漫画の作成について, 守谷に対し, 参考文献 の中から描くべきものを指示したりしたとしても, 原告は, イ ラストや漫画を描く技能もその経験も有しないものであり、原 告が描くべき物を指示することは、単なるイラストないし漫画 の作成の具体的依頼にすぎず,これを具体的に表現し,創作し たのは、守谷であるから、その著作者は守谷であり、原告では ない. また、守谷がイラストを作成する過程において、原告が 守谷の作成したイラストを一部修正するように注文を付け、指 示をしたとしても、原告は、イラストを描く技能や経験も有し ないものであるから,原告の右行為は,前同様に,守谷に対し, 漫画の作成の具体的な依頼ないし注文をした行為の一環と評価 でき、イラストや漫画の著作行為であるということはできな い.」と判示して創作的な表現を実際に行った者が著作者であ るとしています.

*1 東京高裁平成14年11月14日判決

また、地図を画家に依頼して作らせた場合に誰が著作者とな るかが争われた事案 (東京地裁昭和39年12月26日判決) では 「原告は、昭和38年8月末、当時東京都内において、国際オリ ンピックのための道路工事が諸所において開始されたが、各道 路が、どこを通り、かつ、どこで連絡するのか、一般には知ら れていなかったことに着目し、高速道路を中心にパノラマ式の 東京の地図を製作し,原告発行の国際写真情報に掲載する企画 を立てたこと, その企画に基づき, 原告の編集部員が首都高速 道路公団広報課において, 道路計画及び立体交叉の模型を調査 し、道路の主要部分を空中撮影するなどして資料の蒐集に努め たこと, 同年九月初め頃, 原告の編集長が, 画家井上球二に地 図の製作を依頼したが、その際、地図に入れるべき主要道路 (例えば、放射線及び環状線),建物及び施設等 (例えば、東京 駅、東海道新幹線、東京タワー、国会議事堂、明治神宮、モノ レール及び羽田東京国際空港)を指定し、森や河川は着色する よう注文し、かつ、前掲写真及び東京の50万分の1の地図を提 供したこと並びに原告の編集部員及びカメランが井上球二を案 内し写真を見ただけでは解りにくい箇所を踏査したことを認め ることができるが、これらの事実だけから、直ちに、原告の地 図が原告の著作にかかるものであるとすることは、著作物の性 質上, はなはだ困難というべく, かえって, 前掲証拠によれば, 井上球二は、原告から提供された前記各資料と踏査の結果に基 づき, 原告の指示, 注文したところをできるだけ画面にとり入 れ、その意図にそうよう努めつつも、これを図形、図柄により 具体的に表現するにあたっては、その画家しての芸術的な感覚 と技術を駆使して、みずからの創意と手法とにより、原告の地 図の原画を製作したものであること. したがって、原告の地図 は、井上球二の創作にかかる精神的作品であることを窺うこと ができるから、原告の前示主張は理由がないものというほかは ない」と判示して、やはり創作的表現をした者を著作者である と認定しています.

以上に対して、その作成にあたっての具体的指示に創作性が認められ、その指示にしたがって制作がされたときには、注文主が著作者となります。東京地裁昭和54年3月30日判決は「被告会社は、本件図の作成にあたり、これを企画し、その従業員らが被告会社の業務として、種々調査を重ね、資料を収集し、記載項目も細部にわたって取捨選択したうえ、その記載方法についても、数多くの資料を提供して、枝葉末節に至るまでことこまかく具体的に指示しているのであり、かつ、本件地図が被告会社の著作名義により公表されるべきものであったことは本件口等弁論の全趣旨によって明らかであるから、いわば通常の編集地図にすぎない本件地図を著作したのは被告会社というべく、原告は、著作者たる被告会社の指示に基づき、単に製図家として製図作業に従事したにすぎないものというほかはない、」と判示しています。

具体的にどこまでの指示があれば、注文主が著作者となるかですが、創作的な表現と認められるところを作成したといえる程度の具体性が必要です。実際に地図などを描いた人の創作的関与があるときには、共同著作者となる場合があります。

弁護士 高木宏行 (キーストーン法律事務所) 日本地質学会顧問

第二東京弁護士会所属 現在 東京弁護士会・第二東京弁護士会合 同図書館嘱託,(財)日弁連交通事故相談 センター東京支部 副委員長





昨年は中越地震やスマトラの津波と自然の猛威を見せつけられた 年でした。そして、それらの災害の予測や対応で地質学が果たすべ き役割を一層考えさせられました。地質学会では地質災害委員会が 中核となって自然災害に取り組んでいますが、ますます真剣な取り 組みが必要であると襟を正して決意を新たにいたしました。

新潟県では7月13日豪雨災害を受けた上に10月23日には中越地震 の甚大な被害を受けました。 地元の新潟大学はいずれの災害におい ても迅速に調査団を組織し調査にあたり, 復興に向けて地域への貢 献をしています. 新潟大学では調査結果をウェブサイトで随時報告 しています。平成17年1月29日(土)の10:30~16:30に、それら をまとめて地元で報告会を開催しました。主催は新潟大学・新潟大 学調査団で、日本地質学会をはじめ日本応用地質学会、日本建築学 会北陸支部新潟支所,砂防学会,日本地震学会,日本地すべり学会, 地盤工学会, 日本雪工学会, 日本雪氷学会, 地学団体研究会, 地理 情報システム学会が共催しました. 主催者側の報告によれば参加者 は450名と大盛況でした. 把握できた内訳は以下の通りでした. 新 潟大学教員:67名,新潟大学職員:21名,新潟大学学生·院生:90 名, 他大学: 21名, 新潟県: 38名, 市町村: 11名, 国公関係: 8名, 一般市民:84名、高校教員:9名、建設・土木・地質コンサルタン ト関係:61名、研究機関:11名、マスコミ:12名、参加者の人数が 多いだけでなく様々な階層からの参加が見られたことは、地質災害 に対する世の中の関心の強さを示したものと言えます.

内容は3つの部分からなっていました。第1部は「7.13豪雨災害はなぜ起きたか」がテーマで、3つの講演と討論がなされました。第2部は「中越地震の被害の検証」がテーマで9つの講演がなされ、最後に地質災害に関して総合討論がなされました。講演と平行して

14件のポスターによる報告がなされました.豪雨 災害に関する調査では、シルバーパワーが積極的 に投入されたとのことを聞きました.ポスターの 内容には豊富な経験が生かされいて感動しまし た.また、山古志村のハイビジョン空撮データが 紹介されていましたが、今後自然災害調査への応 用という点で大きな可能性を秘めた技術であると 思いました.ポスターの説明時間には、どのポス ターの前にも観客が溢れていました.説明時間が 昼休みの1時間だったのでもう少しじっくりと説 明を受けたかったという気持ちもありましたが、 短時間に豊富な内容が良く整理され示されていた と感心しました.

自然災害の予測や対策にあたって地質学が重要 な役割を果たすことが、一般市民にも理解できる ように全体が構成されていました。同時に、工学 的、農学的観点からの調査結果も報告され、自然

災害に関する科学が学際的であることが印象づけられた思います. どの講演も興味深いものでしたが,とりわけ農学部の中野俊郎氏の 講演には興味を覚えました.長岡市において2003年から地下水面の 変動が測定されていましたが、中越地震の本震、余震の発生と連動 して変化していることが示されました.これは地震予知の可能性を 示すものかもしれません.中野氏の淡々とした話し方に、氏の学問 に向かう真摯な姿がうかがえました.自らの研究成果を過大に宣伝 しがちな昨今の風潮の中で、中野氏の姿勢にさわやかさを感じました.

この報告会は自然災害に対し地元の大学が本格的に取り組み地域 社会への貢献を図っているという点でも高く評価されます。自然災 害に対しては迅速かつ継続的な対応が大切であることを再認識させ られた報告会でした。



待望!! 学会オリジナルフィールドノートが 出来ました.

サイズ: 12×19 cm. ハードカバー, ビニールレザー加工, 金箔押し. カラー:チョコレートブラウン.

用紙は野外調査に最適な,雨に濡れても丈夫な高級紙・レインガードを使用しています. 是非ご活用下さい.

ご購入を希望の方は、学会事務局まで. 会員頒価 500円/冊.



☆関東支部

案内

2005年関東支部総会と支部幹事選出のお知らせ

2005年度関東支部総会は2005年6月11日に開催されます. 総会に先立ち、日本地質学会関東支部細則第一条にもとづき、下 記要領で2005年度の支部幹事選出を行います.

記

立候補期間:2005年4月1日(金)~15日(金)

立候補の方法:候補者(支部会員)は氏名,所属,連絡先を下記に届け出ください.

候補者の推薦は,推薦者(支部会員)の氏名,所属,連絡先を下記に届け出ください。

受付先:日本地質学会関東支部あて、メール、郵送、FAXにより 受け付けます。

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル内 FAX 03-5823-1156

メール main@geosociety.jp

(関東支部選挙管理委員会)

日本地質学会関東支部細則

支部長および幹事の選出

第1条 幹事の選出は、つぎの方法による.

- (1) 幹事会は任期最終年度の2月末までに、幹事の中から選挙管理 委員3名を選任し、選挙管理委員会を構成する.選挙管理委員会は 幹事の選挙に関する事務を行う.
- (2) 選挙人および被選挙人は支部会員とする.
- (3) 選挙管理委員会は、本会ニュース誌により、期日および方法を 当該年度の4月末までに明示して、幹事候補の推薦および立候補を 求める、候補者の推薦は、推薦者(支部会員)の名を記して支部会 員1名を推薦するものとする。
- (4) 幹事候補者が定数を越えた場合,選挙管理委員会は,本会ニュース誌により幹事候補者名簿,投票期日および投票方法を公示して,支部総会において支部総会参加者による無記名投票を求める.
- (5) 選挙管理委員会は得票数順で当選者を決定する. 選挙管理委員会は,その結果を総会に報告し,任務を終える.
- (6) 幹事候補者が定数を越えなかった場合は、候補者名簿等の公示および投票を省略して全候補者を新幹事として決定できる.

☆北海道支部

案内

北海道支部総会・例会のお知らせ

地質学会北海道支部総会・例会を下記のように開催します。今回 も地質巡検も行うことにしました。札幌周辺の地質について最近の 知見を交えて、見直してみたいと考えています。

1. 日程

2005年6月25日(土)午後 総会・シンポジウム・例会・懇親会 **2005年6月26日**(日)地質巡検

2. 開催場所

北海道大学理学部(札幌市北区北10条西8丁目)

3. 地質巡檢

「札幌周辺の地質を見直そう」リーダー:岡 孝雄 巡検参加希望者は6月3日までにお知らせ下さい。

4. 一般講演

広く講演を募ります。講演時間は質問時間を含めて15分以内を予 定しています。

講演希望者は, 講演者・講演タイトル・連絡先をお知らせ下さい. 講演申し込み締め切りは4月25日とします.

講演申し込み・問い合わせ先

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学大学院理学研究科·地球惑星科学専攻

中川光弘

 $\begin{tabular}{ll} TEL: 011-706-3520 & FAX: 011-746-0394 \\ E-mail: nakagawa@ep.sci.hokudai.ac.jp \end{tabular}$

(文責:庶務幹事·中川光弘)



☆リーフレットシリーズ・3 好評発売中!!「大地をめぐる水─水環境と地質環境─」

第1作「大地の動きを知ろう― 地盤・活断層・地震災害―」, 第2作「大地のいたみを感じよ う―地質汚染Geo-Pollutions」 に引き続きリーフレットシリー ズ第3作「大地をめぐる水―水

環境と地質環境—」が発売になりました.

A2版裏表カラー印刷, ハンディータイプでさらにポスター にもなります。 ご希望の方は以下の要領でお申込下さい.

会員価格300円 非会員価格400円

申込方法:学会事務局宛に,希望部数を記入し,返信封筒(切手貼付のこと)を入れてお申し込み下さい.

※少部数の場合は、代金は切手で同封可.

なお,サイズが横15cm・縦21cm,重さ25g/部ですので,郵 送につきましては、以下のようにお願いします。

定型封筒の場合:90円切手貼付. ただし, 二つ折りにしての郵 送となります。

定型外(15cm×21cm以上)封筒の場合:130円切手を貼付。

院生コーナー

国際デルタ会議: 地質モデリングと管理参加報告

北沢俊幸・信州大学工学系研究科博士後期課程

2005年 1月10-16日にベトナムで行われた国際デルタ会議について、その様子を報告する。この会議はIGCP-475「モンスーンアジア太平洋地域のデルタ(DeltaMAP)」(2003-2007)とアジア太平洋ネットワーク(APN)「アジアの大規模デルタ」の第 2 回年会、CCOP DelSEAプロジェクト「東南アジアと東アジアのデルタにおける統合的地質アセスメント」(2004-2008)の第 1 回会合の合同会議で、ベトナム科学技術院(VAST)、産業技術総合研究所地質情報研究部門、新潟大学の共催で行われた.参加者は、ベトナム31名、日本16名、中国11名(内香港 1名)、インド 6名、韓国 5名、米国 5名、オーストラリア 4名、タイ 3名、フィンランド 3名、カンボジア 2名、ブルネイ 2名、バングラデシュ 2名、英国 2名、ドイツ 2名、イラン、パキスタン、スリランカ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、カナダ、ポーランド、オランダ各 1名、合計103名であった.

プレ巡検

本会議前の1月10日には筆者と本会議の現地ホストでもある VASTの地理副研究所のグエン・バン・ラップさんの案内で筆者の フィールドを対象に日帰りプレ巡検を行った.参加者は51名,バス 2台での大規模な巡検であった. 更新統エスチュアリー/デルタ堆 積物を陸側から海側に移動しながら4箇所の露頭を観察した。筆者 にとって外国人相手に巡検案内をするのは初めての経験であった. 参加者の大部分が地質を専門としていない(地理学,水文学,海洋 学などが多い) ためか、露頭に到着しても汚れる所には行かない、 積極的に観察しようとしない人が多かった. しかし露頭説明は熱心 に聞き、質問も盛んだった. その一方どこへ行っても同じことだと 感じたのは、地質屋はすぐに露頭に張り付き、案内者が説明をして も大して聞いていない (写真1). そして議論好きである. おのお のが好き勝手に興味あることを見つけ、色々な解釈を述べている. しかしこちらから聞けば意見を聞かせてくれてためになった。 筆者 にとってはこの巡検案内が主目的であったため、巡検が無事に済ん だ時点でこの会議への参加意義の9割は終了した。

本会議

1月11-13日には本会議がホーチミン市の空港に近いホテルで行われた(写真2).参加者の多くは同ホテルに宿泊した。キーワー



写真1 プレ巡検 (齊藤 隆氏提供).



写真 2 本会議が行われたホテル。すぐ前の道はホーチミン市の喧噪。

ドは「デルタ」であったため、参加者の専門分野は多岐にわたった. 世界中のデルタ・河川・沿岸・陸棚域について、地質時代のデルタ の発達過程、現在の堆積過程、水文学、土地利用、人間活動の影響、 ヒ素汚染などなど、普段は耳にしない内容の研究が多かった。参加 者たちは普段はお互いに顔を合わせない上、年代の幅も広かったが、 逆にそれを楽しんでいるようでもあり、会議は終始和やかな雰囲気 であった。休憩時間は非常に多国籍なおしゃべり空間となる(写真 3)。

また.12月に起こったインド洋大津波の特別セッションが急遽設けられ、参加者全員による黙とう、産業技術総合研究所の七山 太氏による日本の研究紹介、インド、スリランカ、タイの参加者から現地の様子が報告された。世界的に著名な堆積学研究者でさえ津波についてほとんど知らないことに驚いた。津波大国日本の進んだ研究がこれからの防災計画に果たすべき役割は大きい.

ポスト巡検

本会議後にはグエン・バン・ラップさん他の案内で、メコンデルタの地形と堆積物を対象に2泊3日のポスト巡検が行われた。参加者は69名、バス2台での移動であった。メコンデルタは広大である。巨大な中州がいくつもある。1日目はホーチミン市から比較的近い中州に位置する街へ移動しただけで終わってしまった。2日目はメコン川本流をボートで下り、現在陸地になりつつある、地図にはまだ載っていない河口州に上陸した。マングローブ林が泥を固定し州が広がり、州が広がるとマングローブの生息域がさらに拡大していく。泥の中に若いマングローブがぽつんぽつんと点在していた(写真4)。3日目は中州の中に列状に発達する砂丘を観察したあとホーチミン市へ移動するだけで一日が終わった。非常にゆったりとしてストップが少ない巡検であったが、参加者たちの"受け"はよかった。彼らの感想は、「メコンデルタのでかさが分かった」だそうだ。

おわりに

ポスト巡検後には金沢大学の塚脇 真二氏らによるカンボジアオプショナルツアーが催された。ホーチミン市から飛行機で一時間ほどのシェムリアップに到着し、そこからバスとボートでメコン川上流に位置するトンレサップ湖を見学し、翌日はアンコールワット遺跡の見学をした。

今回の会議は、始めにプレ巡検の案内をさせていただいたということもあり、いつになく多くの人と話をし、参加しきったと感じられた会議であった。次回以降の会議は、2006年1月にプルネイ、2007年1月にバングラデシュのダッカ、2008年1月に中国の上海/青島で開催されることに決まった。次回のホストは、Joe Lambiase氏で、会議名は「国際デルタ会議:堆積システムと層序的発達」、



写真3 本会議休憩時間。

堆積地質に焦点を当てた会議になる予定である. アジアで開催する 会議で,これだけの他分野から沢山の著名人が集められる機会はそ うそうない. きっと来年以降も面白い会議となるであろう.

関連するウェブサイト

(アジアデルタプロジェクト) http://unit.aist.go.jp/igg/rg/coast-rg/MRE.1/ADP/index.html



写真4 ポスト巡検.メコン河口州に上陸.

常時投稿をお待ちしています. 院生コーナーの編集は現在以下の4名でおこなっています. 原稿はe-mailでいただければ幸いです.

t02h106@amail.shinshu-u.ac.jp おいでは akinori@eps.s.u-tokyo.ac.jp 高橋昭紀(東京大) microbe@hiroshima-u.ac.jp 自石史人(広島大) f04j003d@mail.cc.niigata-u.ac.jo 梅津慶太(新潟大)

CALENDAR

2005.3~

地球科学分野に関する研究会,学会,国際会議,などの開催日,会合名,開催学会,開催場所をご案内致します。会員の皆様の情報をお待ちしています。 ☆印は,日本地質学会行事。

2005年

3 月 March

○日本海洋学会2005年度春季大会

3月27日~31日

場所 東京海洋大学品川キャンパス

大会HP http://secure.gakkai-web.net/gakkai/jos/index.html

〇日本地理学会2005年度春季学術大 今

3月28日 (月)~30日 (水) 会場:青山学院大学青山キャンパス http://www.soc.nii.ac.jp/ajg/index.html

○日本情報地質学会シンポジウム 「地質情報の開示・公開に向けての活動状況 |

3月29日(火)13:00 場所 東京芸術劇場 5 F大会議室 http://www.jsgi.org/

4 月 April

○日本堆積学会2005年例会

4月22日(金)~26日(火) 会場 福岡国際会議場(福岡市) 問い合わせ先: http://sediment.jp/

5月 May

○第5回残土石処分地・廃棄物最終 処分場に関わる地質汚染調査浄化技 術の研修会

5月11日(水)~14日(土) 主会場 潮来ホテル(JR潮来駅前) http://homepagel.nifty.com/npo-geopol/

☆日本地質学会第112年代議員総会

5月22日 (日) 14:15~

会場:幕張メッセ 国際会議場(千葉県) http://www.geosociety.jp/

○地球惑星科学関連学会2005年合同 ★会

5月22日 (日)~26日 (木)

会場:幕張メッセ 国際会議場 (千葉県) http://www.epsu.jp/jmoo2005

○第43回原子力総合シンポジウム

「原子力はエネルギー逼迫時代のメシアになりうるか (未定)」

5月26日 (木)~27日 (金)

場所 日本学術会議講堂(東京都港区六本木) 問い合わせ:(社) 日本原子力学会 内 atom@aesj.or.jp

○日本地下水学会2005年春季講演会

5月28日 (土)

場所 東京農工大学農学部(東京都府中市) http://www.groundwater.jp/jagh/

6 月 June

☆関東支部・総会・講演会

6月11日 (土)

場所 北とぴあ (東京都北区王子)

http://geosociety.jp/branch/kanto/index.ht

☆中部支部年会

6月11日(土)総会・シンポジウム・懇親会

12日(日)地質巡検

場所 信州大学理学部(長野県松本市旭3-1-1) 問い合わせ:中部支部事務局 竹内 誠 E-mail:takeuchi@eps.nagoya-u.ac.jp

○地質学史懇話会例会

6月18日 (土) 13:30~17:00

場所:北とぴあ (東京・王子)

内容:講演2題

勝井義雄「火山学史」,

石井良治「スウェン・ヘディン」

☆北海道支部総会・例会

6月25日 (土)~26日 (日)

場所 北海道大学理学部

問い合わせ先 幹事:中川光弘 nakagawa@ep.sci.hokudai.ac.jp

○日本情報地質学会総会・講演会 Geoinforum2005

6月30日 (木)~7月1日 (金)

場所 岡山理科大学 理大ホール (40周年記 念館8F)

http://www.jsgi.org/

学 会 記 事

2005年度 第 5 回理事会 議事録

期 日:2005年1月27日(木)

 $13:00\sim17:00$

場 所:地質学会事務所

出席者:齊藤会長,木村副会長,渡部常務理事・天野副常務理事(3時)・上砂・大友・公文・高橋・中井・久田・宮下・向山,橋辺(事務局)

欠席理事:加藤副会長, 倉本 (議長委任) 狩野·徐·增田

○報告事項

1. 運営財政部会(部会長-公文, 倉本, 向山, 大友)

総務委員会(委員長-公文) 庶務関係(担当理事 公文)

・原子力総合シンポジウム運営委員会(日本 学術会議科学総合研連ほか)「第43回原子力 総合シンポジウム」5月26・27日,学術会議 講堂,共催依頼を了承した.

運営委員として, 高橋理事を推薦.

- ・日本学術会議地理学連合主催「空間情報社会」シンポジウム,3月4日,学術会議講堂,後援依頼を了承した.
- ・山口大学理学部「サイエンスワールド 2005」, 3月13日, 山口ニューメディアプラ ザ. 後接依頼を了承した.
- ・応用地質学会・日本技術士会主催,講演会 「活断層と地震の予測」,3月5日,機会振興 会館,協賛依頼を了承した.
- ・高知工科大学COEプログラム「防災に関する国際シンポジウム(ISMD2006)」, 2006年3月9日-11日, 高知科学大学, 後援依頼を了承した.
- ・地学史懇話会幹事,会田さんより口頭にて、 地質学界の古い資料等の保存について、学会 としてワーキンググループを作るなどして積 極的に行なうことが望ましいのではないかと のことが懇話会で話題になった。近日中に書 面で申し入れる予定。
- ・ 以上報告の上了承した.

会員関係(担当理事 倉本)

1) 入退会の承認

入会8名

賛助会員[1]:白山工業㈱(計測機器製造販売)

正会員[3]: 久保田充,後藤祐孝,谷口 徹正(院生割引)[2]:孫文,李京昌 準会員[2]: 戸上 愛,藤井 諭 退会73名(04年末)

賛助2社,正会員71名(うち院1名)

2) 逝去(名誉会員1名)

石井基弘 (8月29日), 宇留野勝敏 (12月31

日

4) 12月末現在会員数

賛助37,名誉74, 正4,654 (内, 院割261), 学 生47. 合計4,812名

長期的減少傾向に変化はないものの, 年末 の会員数推移としては昨年並み.

5) 会員名簿を発行し,新年に発送.

関連学会連合(担当理事 天野)

· 地質科学関連学協会連合

町田, 玉生, 岩松, 横田の各氏より連合活動 の再開要請があり, 2月上旬に会談を予定, まず各組織の担当者の確認から開始する.

- ・自然史学会連合 森田委員からの報告を了承
- ·地理関連学会連合

会計関係(担当理事 向山)

・04年12月までの会計報告

会費収入は100%を前提に予算案を作成するべきとの意見があり、現在のシステムで表現出来るかどうか、次回理事会までに検討することとした。会費の自動引き落としを採用している会員は全体の1/3程度で、会費滞納会員(年度末)が400名程度いることも含めて、対応策を検討した。その結果、次年度会費の納入(前納)を増やして頂く事とあわせて、ニュース誌に会計委員会からの提案記事を掲載することとした。また、将来的にはオンラインでの入金システムも目指すこととした・中越地震被災による会費免除の申請は、現

在までに2名(田中 力,中村稔彦)あった. 応募者があったことをHPにて広報するこ

応募者があったことをHPにて広報することとした。

広報委員会(担当理事 大友)

ニュース誌編集小委員会(担当理事 大友)・委員会委員を、徐、玉生、中井、天野各理事まで選出し、大友理事が委員長となった. 現在表紙カラー写真の投稿が少ないため、理事会を含めて周辺からの投稿を集めることとした. ニュース誌表紙写真の投稿を促進するためも含めて、出版後もHPでアーカイブ公表することを検討することとした.

インターネット運営小委員会(担当理事-大 友)

・委員全員の新旧交代を予定,現在までに内 諾を得ているのは,榎並正樹,奥平敬元, 納谷友規,坂口有人.大友理事が委員長と なった.ホームページの英文版が無いため, 至急作成することとした.その際,海外へ の情報発信として重視するコンテンツを優 先して進めることとし,必要であれば翻訳 等の外注も検討することとした.新たな企 画として,地学に関連するQ&A集を検討 することとした.

- 2. 学術研究部会(部会長-久田,徐) 行事委員会(久田委員長)
- ・05年5月22日(日)開催予定の総会開催 時間について、総会時間は5月22日午後 2時から4時とした。
- ・京都大会については、担当の増田理事から 随時理事会に進捗状況の報告をお願いする こととした。特に準備委員会等のコンタク トパーソンを早急に問い合わせることとし た。

専門部会連絡委員会

国際交流委員会 (徐委員長)

ヒマラヤ地質研究委員会 (委員長-在田一則) 南極地質研究委員会 (委員長-廣井美邦) 地質環境の長期安定性に関する委員会 (委員 長-高橋正樹)

3. 編集出版部会(部会長-狩野,宮下,増田)

地質学雑誌編集委員会(委員長-狩野 副委員長-次田,宮下=企画担当)

· 今月の編集状況は以下の通り. (1月25日 現在).

本年度投稿論文数10編 [論説 9編 (和文 9) 特別寄稿 1 口絵 3 (和文 2 欧文 1) 投稿数昨年比 + 0 査読中 55編

- ・特集号「アジアモンスーン」の原稿はいまだ一編も受理がでていないので、発刊は大幅に遅れそう. 4月号以降になる可能性大である.
- ・上記特集号の表紙が投稿された.前回の特集号では、はじめてのことでもあり理事会 の承認を得たが、今回からは編集委員会で 決定し、理事会には紹介するだけとしたい. (表紙案回覧)
- ・2月号、3月号とも口絵は2編掲載する. これは投稿数が多く、受理期間が短いため に手持ちがたまってきた事による. 昨年の 特集号の発刊も掲載待ち期間に影響を与え た.
- ・口絵は別にして掲載待ち論文が不足気味で、まもなく自転車操業に陥る可能性がでてきた。昨年は特集号で救われた。あらたな特集号の投稿が望まれる。

The Island arc 編集委員会 (担当理事 増田, 事務局 渡部・竹内圭史)

・アイランドアークのオンライン購読は、2005年より地質学会のHPからIDとパスワードで閲覧できることとなる。プロバイダーに会員の氏名、番号の登録を準備中.

企画出版委員会(担当理事 高橋)

・58号は12月24日入荷.編集委員が分担して 100部以上を買い上げるなど,販売と宣伝 に協力している. ・国立公園地質リーフレット企画を開始する 🖁 ・連合運営については、人材の派遣を中心に 🚪 地質学雑誌のありかた検討委員会(加藤委員 予定とのことが報告された.

The Island arc 連絡調整委員会(担当理事 増田,委員長 会田)

- ・特集号平成16年度補助事業のページ数が予 定に達しないことが明らかとなり (申請 540ページ, 予定312ページ), 状況報告書 とともに計画変更届を出した,詳細は学振 の担当者と相談する予定.
- ・投稿数 特に学会員の原稿を増やすことと アジア(特に中国・台湾・韓国)からの投 稿を増やしたいので,必要な手段を理事会 としても取ることとした.
- 4. 普及教育事業部会(部会長-高橋,中井) 京都大会での中高生発表会の準備は, 京都 大会実行委員会と連絡を取って検討を始める 予定, 早急に実行委員会のコンタクトパーソ ンを確認することとした.

地学教育委員会(委員長-阿部国広) 生涯教育委員会(委員長-柴 正博) 地質基準委員会(委員長-新妻信明) 地層名委員会(委員長-天野)

5. その他-1

支部長連絡会議(担当理事 天野)

- ・12月11日支部長会議議事報告に基づき,以 下の占を給討した
- ・情報提供を希望する支部には、支部会員に ついての情報を提供することとした. 提供 する情報は,「名前」,「連絡先住所」,「メ ールアドレス」とする. 総会直前の支部会 員数の確認は, 地質学会事務局に直接して
- ・4月-3月という年度設定は変えられな い. ただし、総会を支部の年度末に実施す ることは可能とする. これに関しては顧問 弁護士に法的な点を確認することとした.
- ・ 突発的に起こる地質災害に対して、地質学 会として初動経費の一部を負担することを 会計委員会に検討してもらうこととした.
- ・支部長会議には組織上、議決件を与えるこ とはできない. ただし, 支部長会議は, 単 なる情報交換会ではなく, 理事会に重要な 提案ができるものと考える. 支部長が評議 員会に出席する権利を与える (オブザーバ ーとして).

地質災害委員会(担当理事 天野)

- ・新潟中越地震に関する関連学協会主催のシ ンポジウムを3月に開催する方向で検討を 開始する.
- ・新潟大学主催, 日本地質学会ほか共催の 「新潟県連続災害の検証と復興への視点」 シンポジウム (1月29日) の予定について 報告された (別紙資料参照).

JABEE委員会(委員長-天野)

技術者継続教育委員会 (PDE) (委員長-公文) 地球惑星連合 (木村副会長)

・第3回設立準備会報告(資料参照)があっ

行い, 負担金は求めないこととした. ただ し, リスクは加盟学会で負担する責任を明 記することとなった.

【以下, 評議員会の下の委員会】 各當選考委員会(委員長-保柳康一) 名誉会員推薦委員会(委員長-加藤副会長) 科研费委員会 (委員長, 洒井治孝) 学術会議連絡委員会(委員長-井内美郎) 女性地球科学者の未来を考える委員会 (委員 長-田崎和江)

法人化実行委員会(委員長-齊藤会長) ·募金状況

12月末募金総額 13,849,008円 (03年度 6.612.850円, 04年度 7.236.145円, 預金利息

- ·12月末現在基本財産累計額 18.116.567円
- ・ 文科省説明用ポンチ絵について検討した.

法務委員会(担当理事 上砂)

・2004年12月21日18:00より21:00まで地質 学会事務局で開催した.

出席:足立勝治,伊藤谷生,上杉陽,上砂 正一, 斎藤眞, 米澤宏, 高木宏行顧問弁護士

1. 法務委員会の規約案と法務委員会の位置 付けについて

法務委員会の規約(案)を別紙のように作 成した. 1月27日の理事会で承認された時点 から施行することにした.

2. 委員長選出

規約により法務委員長は担当理事が就任す ることになり, 上砂が委員長の任務に就くこ とになった.

3. 千葉大会での講演申し込み異議申し立て に関する処理機構規則や著作権譲渡等につ

第112回大会(京都)からは千葉大会での 処理機構規則や著作権譲渡等について参考に しながら規則を整備することにした.

3-2. 地球科学関連学会全体として知的財産 権問題を考えるイニシアティブ

- ・地球科学関連学会全体として知的財産権問 題については合同大会でセッションを設け てシンポジウムを開いてはどうかという意 見が出たが, 斉藤眞委員が開催可能か合同 大会の担当者に聞くことにした.
- ・今回の合同大会では無理、今後、関連学協 会と協議しながら検討を続ける必要があ 3.

3-3. 卒論,修論と知的財産権

- ・委員会として検討する予定. 学会として検 討することには微妙な問題がある. これに ついても考慮する.
- ・この他、法人の理事・会長をはじめとする 役員の兼業手続きにも対応した委嘱手続き 等を, 学会としてどこまで整備すればよい のか、法務委員会に再確認をお願いした.

倫理規定策定委員会(委員長-松本 良) オンライン化委員会(委員長-鈴木徳行)

ビジョン委員会 (倉本委員長)

・ 倉本委員長に早急に主旨を書いてもらい, 委嘱状をだすこととした.

選挙管理委員会

○案議事項

1. IUGSのインド洋大津波に関連する決議 への対応

地質学会としてこの決議に替同し、以下の検 討を行なった

- 1) 理事会が前文をつけ、ホームページに IUGSの参照先とリンクを設定する.
- ・インターネット委員会で対応する.
- 2) 災害委員会として,「多国籍・他分野の 協調研究と成果の蓄積」と「あらゆる社会 の階層への情報の開示」に対応した事業と して、いくつかを認定する. すでに計画さ れているものを拡張する形でもよい. 決議 には津波に限らず全ての自然災害となって いるので、水害・地震・地滑り等、災害委 員会のテリトリー全て.
- ・次回の災害シンポジウムのプログラム等に 表記する.
- 3) ビジョン委員会で、「多国籍・他分野と の協調研究」というあたりを取り上げても らう
- ・ビジョン委員会で対応を検討する.
- ・あわせて, 災害委員会でも検討する.
- 4) 社会への情報開示という点からは普及教 育事業としての対応も考えられる.
- 2. リーフレット"「大地のいたみを感じよ う」の増刷について

現在, 在庫切れになっているが需要もあるの で、常備が望ましい。

見積概算 500部 90.000円,

1000部 100.000円 1000部増刷することとした.

- 3. 法務委員会規約案の検討
- ・下記項目を追加した上で承認された.

第3条への追加項目:(1) 学会および学 会員の法的地位の保全にかかわる事項.

4. その他

出版物在庫案内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください. なお, 2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わ せください.

現金書留または郵便振替 00140-8-28067

No. 38以前の論集: 院生・学生は4割引,正会員は2割引 No. 40以降の論集: 院生・学生のみ2割引

地 質 学 論 集

- 続・日本列島の基盤. 加納 博ほか編, 331pp, 1982年4月刊, 会員頒価2,400円, 〒340円 第 21 号
- 白亜系の国際対比—現状と問題. 平野弘道編, 172pp., 1985年 3 月刊, 会員頒価2,000円, 〒290円
- 日本の第四紀層の層序区分とその国際対比. 市原 実ほか編,221pp,1988年4月刊,会員頒価2,000円,〒340円 西南日本内帯高圧変成帯とテクトニクス. 西村祐二郎ほか編,357pp,1989年4月刊,会員頒価3,000円,〒340円
- 第 33 号
- 第34号 堆積盆地と褶曲構造-形成機構とその実験的研究-. 三梨 ほか編, 209pp., 1990年3月刊, 会員頒価2,500円,
- 第 37 号 古日本海東縁の新第三系―層序・古地理・古環境、小林巌雄ほか編、 326pp., 1992年3月刊、会員頒価3,000円、 〒340円
- 第38号 変動帯における砕岩類の組成と起源—日本列島を例として—, 君波和雄ほか編, 401pp, 1992年3月刊, 会員頒価 3,500円, 〒340円
- 第40号 中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―. 岡田篤正ほか編,250pp,1992年12月刊,会員頒価3,200円,
- 第42号 西南日本の地殻形成と改変. 小松正幸ほか編, 357pp., 1993年4月刊, 会員頒価3,100円, 〒340円
- 第 43 号 浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学. 村岡洋文ほか編, 177pp., 1994年 4 月刊, 会員頒価2,000円, 〒340円
- 第44号 島弧火山岩の時空変遷,周藤賢治ほか編,335pp.,1995年11月刊,会員頒価2.800円,〒340円
- 第 45 号 シーケンス層序学 新しい地層観を目指して、斎藤文紀ほか編,249pp.,1995年8月刊,会員頒価2.500円、〒340 円 (売り切れました)
- 第46号 火山活動のモデル化.佐藤博明ほか編,162pp.,1996年9月刊,会員頒価1,900円,〒290円
- 第 47 号 日高地殻-マントル系のマグマ活動. 荒井章司ほか編, 323pp., 1997年 4 月刊, 会員頒価3,000円, 〒340円
- 第 48 号 Cretaceous Environmental Change in East and South Asia (IGCP350) Contributions from Japan— 岡田博有 ほか編, 188pp., 1997年6月刊, 会員頒価2,100円, 〒340円
- 第 49 号 21世紀を担う地質学. 新妻信明ほか編, 232pp., 1998年3月刊, 会員頒価2,500円, 〒340円
- 第 50 号 構造地質 特別号-21世紀の構造地質学にむけて-. 狩野謙-ほか編, 263pp., 1998年7月刊, 会員頒価2,500円,
- 第 51 号 地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―. 岡田博有ほか編, 162pp., 1998年3月刊,会員頒価3,000円, 〒340円
- 第 52 号 オフィオライトと付加体テクトニクス. 宮下純夫ほか編, 316pp., カラー 10pp., 1999年9月刊, 会員頒価3,000円,
- 第53号 本州弧下部地殼と珪長質マグマの生成・活動システム.加々美寛雄ほか編,401pp,1999年11月刊,会員頒価3,900 円, 〒450円.
- 第54号 タフォノミーと堆積過程—化石層からの情報解読—小笠原憲四郎ほか編,197pp.,1999年12月刊,会員頒価2,900 円, 〒340円. (入荷しました)
- 第 55 号 ジュラ紀付加体の起源と形成過程、木村克己ほか編、221pp、2000年 1 月刊、会員頒価2.800円、〒340円、 (売り切れました)
- 第56号 古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程. 高木秀雄ほか編, 253pp., 2000年3月刊, 会員頒価2,900円, 〒340円.
- 第 57 号 砕屑岩組成と堆積・造構環境、公文富士夫ほか編、240pp, 2000年 9 月刊、会員頒価2,800円、〒340円、
- 第58号 地震イベント堆積物―深海底から陸上までのコネクション―藤原 治ほか編,169pp.,2004年12月刊,会員頒価 2,900円, 〒340円.

リーフレットシリーズ

大地の動きを知ろう一地震・活断層・地震災害― 1995年4月発行 会員価格200円(非会員300円) 大地のいたみを感じよう 地質汚染Geo Pollutions 1997年2月発行 会員価格 200円 (非会員300円)

大地をめぐる水-水環境と地質環境-2001年5月発行 会員価格300円(非会員400円)

下敷き:「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」(英語版) 1 枚200円(非会員300円)

講演要旨集ほか

第109年学術大会講演要旨集(2002年9月刊,新潟)会員頒価3.500円,〒500円

第110年学術大会講演要旨集(2003年9月刊, 静岡)会員頒価3,500円, 〒500円

第110年見学旅行案内書(2003年9月刊,静岡) 会員頒価1,500円、〒350円(静岡大会セット購入の場合送料実費請求)

第111年学術大会講演要旨集(2004年9月刊,千葉)会員頒価3,500円,〒500円 第111年見学旅行案内書(2004年9月刊,千葉) 会員頒価2,000円,〒350円 (千葉大会セット購入の場合送料実費請求)

クリアファイル: 学会オリジナル. A 4 版透明タイプ 会員頒価 1 枚100円

フィールドノート: 学会オリジナル. 12×19cm. ハードカバー. レインガード使用 会員頒価 1 冊500円.

研究室のミニ工場

マルトーの

ラボ・ファクトリーブラン

3点セット

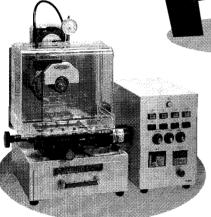
分析・検査用試料作製機器〈切断・研削・研磨〉

小さな機械だが役に立つ

小型 精密 操作簡単 低価格

3機種揃えば、各種試料の精密加工が可能です。

(ガラス・水晶・シリコン・セラミックス・鉱物・金属材料などの加工)

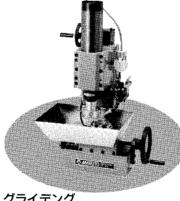


カッティング 連続・浅切込みができる

ステップカッター

[MC-170Y]

- ●試料へのダメージが少ない
- ●最小切込み量 10μm/pass
- ●最大加工能力 H25×L40mm
- ●設置面積 W550×L450mm
- ●本体価格 185万円~

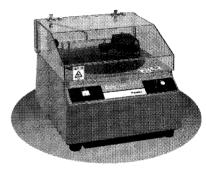


グライデング 立軸平面研削機

プレパラップ

(MG-300)

- ●最小切込量は、0.01mm目盛
- ●加工サイズは、MAX*ϕ*50mm
- ●任意研削面の逐次観察が可能
- ●研削・研磨、同一治具使用により、 研削・研磨工程は簡単で高精度
- 設置面積 W560×L380×H640mm
- ●本体価格 98万円~



ポリッシング 精密鏡面研磨機

ドクターラップ

(ML-180)

- ●組織検査用試料のラッピング・ポリシング
- ●アクセサリー豊富
- ●研磨試料サイズ φ1~φ100mm
- ●設置面積 W400×L400mm
- ●本体価格 45万円~

☆貴重な試料を無駄なく手軽に加工したい、各種カタログあります。開放実験室でテスト加工が可能です。

材料を切る・削る・磨く そして 測る 技術で奉仕する



本 社/〒113-0034 東京都文京区湯島 1-1-10 お東京(03)3251-0727(代表) FAX:東京(03)3251-2478 福岡連絡事務所/〒815-0033 福岡市南区大橋 1-21-5 岩田ビル

☆福岡(092)512-2755 FAX:福岡(092)561-4288

